届け 世界の果てまでも

令和５年１月２０日　Ｎｏ．５９　文責　校長　飯久保一男

学校が楽しい

以前に担任したＳくんは，小学校６年間の欠席が０日でした。これまで多くの子どもを担任しましたが，６年間１日も休まなかったという子に出会うことは，ほとんどありません。Ｓくんが６年間を健康に過ごした結果ですが，どうやら少し具合が悪いときでも「休みたくない」と親にお願いをして登校したようです。

※コロナ前の話です。

現在，コロナ感染症は「地域の感染レベル２」ですので，風邪症状などで具合が悪いのに来てもらっては困ります。

Ｓくんの母親によると「もしオレが休んだ日に，何か楽しいことがあったら損をする」と口にしていたとのことでした。そのとおりに，Ｓくんは，何をするにも積極的に行動し，自分から進んで楽しもうとしました。悪いことをして叱られるメンバーにも入っていましたけど…。「損をする」という考え方がややネガティブな気がしないでもないですが，Ｓくんには「学校は楽しいところ」という前提があります。「学校が楽しいから行きたい」「みんなが楽しんでいるときは自分も楽しみたい」というポジティブな気持ちが，６年間欠席０日につながったのだと思います。

さて，本校の子どもたちは「学校が楽しい」と感じているでしょうか。２学期末に行った学校評価は，現在まとめ中ですので，１学期に行った学校評価のアンケート結果です。

【児童用評価シート】　〇わたしは学校が楽しい。

評価／年月	A	B	C	D	平均点数	肯定的回答	否定的回答
R4.7	53.5%	33.6%	8.8%	4.1%	3.4	87.1%	12.9%

【保護者評価シート】　〇お子さんにとって学校は楽しいところですか。

評価／年月	A	B	C	D	E	平均点数	肯定的回答	否定的回答
R4.7	36.8%	52.7%	7.2%	1.8%	1.5%	3.3	89.5%	9.0%

Ａ＝そう思う　Ｂ＝ややそう思う　Ｃ＝ややそう思わない　Ｄ＝そう思わない　Ｅ＝わからない

学校が楽しいかどうかの質問に，子どもたちも保護者も，約９割が肯定的な回答でした。否定的な回答をした子どもたちについては気になりますので，今後も見守っていきたいと思います。

本校の学校経営理念と方針には

喜んで登校し，満足して下校できる，明日が待たれる学校の創造

を掲げています。朝，元気に家を出てきて，学校で楽しく過ごして，ちょっぴりカシコクなって，満足して家に帰る，そして明日を楽しみにする…，こんな１日を過ごしてほしいと願っています。そのために，教職員で研修をし，取り組んできています。

街灯先生

杉並区立浜田山小学校　３年　石川　連也

ぼくは勉強も体育も苦手で，いろいろ自信がないけれど，一つだけ得意なことがあります。それは図工です。でも，１年生のとき，とてもくやしい思いをしました。学校で学年で一人だけ選ばれる作品展に，自信作を応募したけど，選ばれなかったことです。ぼくは悲しくて，くやしくて，今までたった一つ光っていたぼくのキラキラがとつぜん消えてしまったような気持ちになりました。

そんなとき，杉山先生が話しかけてきてくれました。ゆっくりぼくの話を聞いてくれて，

「作品を作っているとき楽しかったかい？」

と聞いてきたので，ぼくは思い出しながらうなずきました。すると先生は，

「一つの作品を頭で考えて，それを形にできるってこと自体すごいんだよ。しかも，その途中を楽しんでできるってかっこいいじゃないか。結果より，途中をちゃんと学んで楽しめる気持ちが大事なんだよ。」

と話してくれました。

ぼくはそのとき心にピカリと何かが光った気がしました。

家で先生と話したことをお母さんに話すと

「確かにいい結果を出すのもすごいことだけど，その途中，計算でいうなら式を考えて解くことを楽しめたら本当にすてきよね。」

そう同じように答えてくれて安心しました。

ぼくは先生に教えてもらった『途中』をしっかり考えることにしました。途中って実は楽しいことだけじゃなく，いろいろな気持ちがあるけれど『結果より，途中も楽しむ』ことを思えば，それ自体も楽しめて，やりきることが自信になってくる気がします。

ぼくの心の中で，先生のくれた言葉はやさしく光っています。それは『街灯』のように道の途中を照らしてくれます。街灯先生いつも心を照らしてくれてありがとうございます。

こども教育支援財団　第１回子ども作文コンクール　理事長賞作品
※本文はひらがな表記の部分がありますが，漢字に直してあります。

自己肯定感の高い人は，その活動や取り組みの“途中”を「有意義だ」「楽しい」と感じます。結果のみにこだわりません。勝ち負けがあることや順位が決まることなどで，喜んだり，悔しがったりする気持ちも大切ですし，必要な経験ですが，マイナスな気持ちをいつまでも引きずらないことも大切です。

前号で「**楽しくするのは自分次第**」という内容を書きました。教職員が楽しい授業や活動を考えて，準備をしても，授業や活動の主体となる子どもたち自身が楽しくやろうとしなければ，なかなか楽しいものにはなりません。当然ですが，教職員が子どもたちを盛り上げたり，楽しさを伝えたりしていくことが必要です。また子どもたちの実態を理解して授業や活動を考えなければならないことも必要です。

そして，楽しい１日を過ごすためには，家庭での過ごし方も影響します。子どもたちの中には，前日の夜やその日の朝，親に叱られたとか，親と言い争いをしたといったことが原因で，朝から沈んだ表情の子，ふてくされた態度の子がいることがあります。それを引きずって過ごしていく子もいます。悪いことは叱るべきですが，毎朝，元気に気持ちよく家を出てくることは，楽しい１日を過ごすために大切な要素です。

朝の空を見上げて　今日という一日が
笑顔でいられるように　そっとお願いした

ＮＨＫ連続テレビ小説「あさが来た」主題歌『３６５日の紙飛行機』（ＡＫＢ４８）